

2015 年度後期 授業評価アンケート結果に対するコメント

—社会イノベーション研究科—

社会イノベーション研究科長 篠原 光伸

2015 年度後期における大学院の授業評価結果の全体像については、「総合評価」が 4.91、「この分野の関心と学力が得られた」が 4.82 という高得点であり、しかも「総合評価」については 91.7%の受講生から、また「この分野の関心と学力が得られた」については 83.3%の受講生から最高評点を得ている。このことから 2015 年度前期同様に後期の大学院での講義も受講生全体から非常に高い評価を得ているといえる。大学院の講義はどれも少人数で行われるために院生の満足度および教育効果も高いと考えられる。これ以外の教員側の努力に関する項目についても概ね高い評価となっているが、学生側の努力に関する項目である「出席率」(4.67)、「取り組み意欲」(4.72)、「予習・復習」(4.27)については、同程度の高い評価とはなっていない。特に、「予習・復習」については前期(4.33)同様に評価が最も低くなっている。このような受講生の勉学態度が、講義に対する教員の「熱意」(4.90)は感じるものの、「授業レベル」(4.61)の適切性に関する低い評価につながってきていると思える。予習→講義→復習という当たり前の学習行動の習慣化が望まれる。